



# 2026年3月期 中間決算説明会

株式会社 J-MAX

東証スタンダード・名証メイン コード：3422

代表取締役 社長執行役員 山崎 英次

# 報告事項

---

01

2026年3月期中間決算及び2026年3月期通期業績予想

02

成長へ向けた取り組みについて

# 報告事項

---

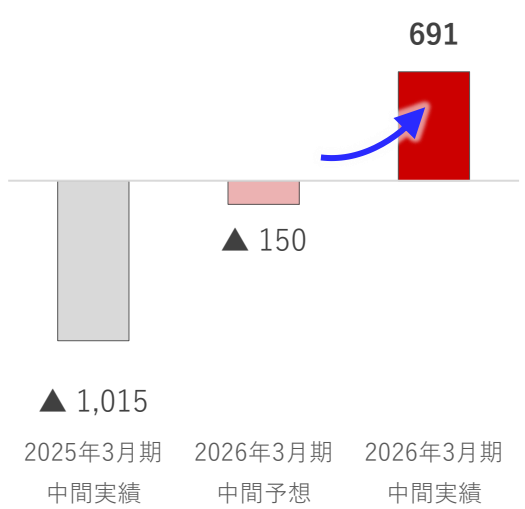
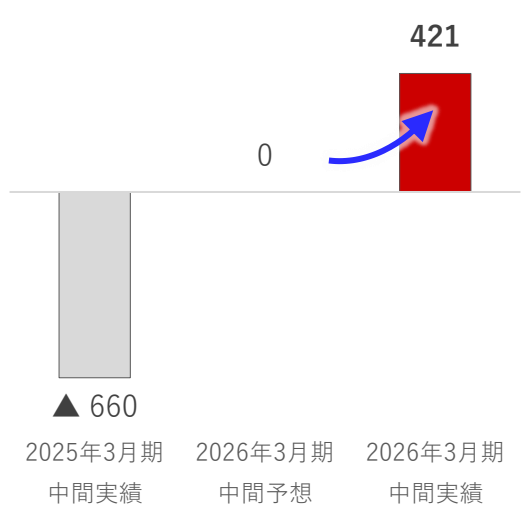
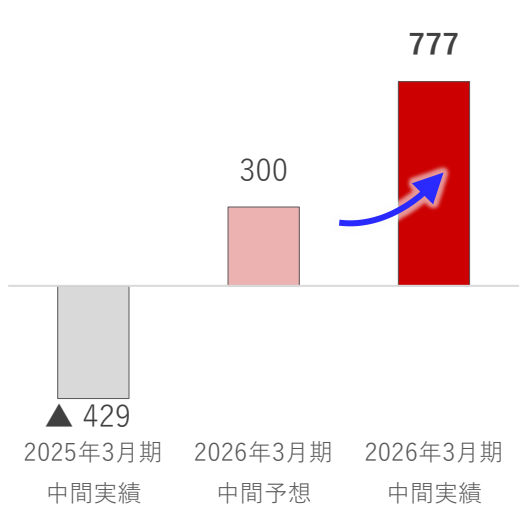
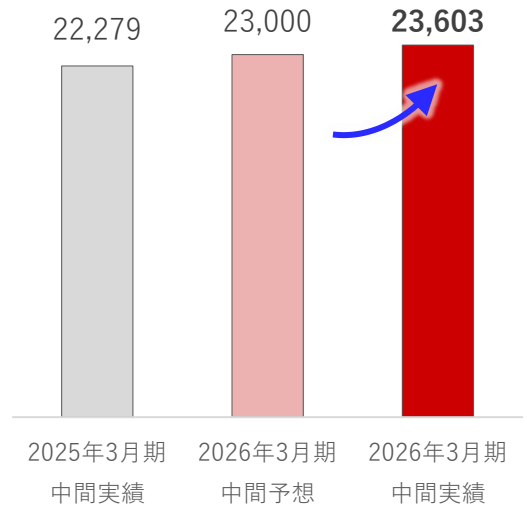
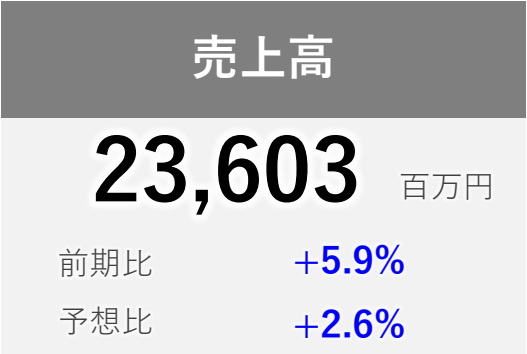
01

2026年3月期中間決算及び2026年3月期通期業績予想

02

成長へ向けた取り組みについて

(単位：百万円)

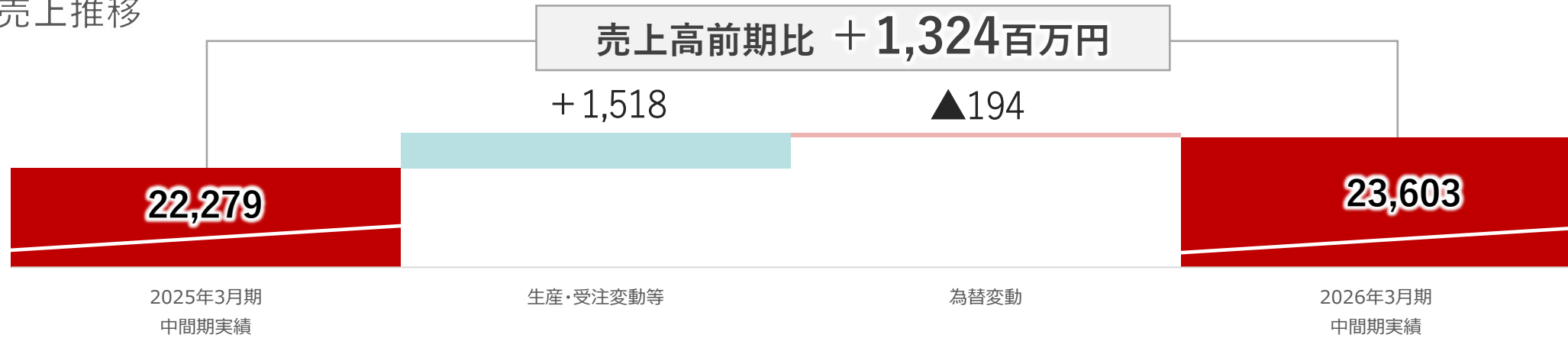


※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

| 為替レート | 2025年3月期中間実績(円) | 2026年3月期中間実績(円) | 増減金額(円) | 増減率(%) |
|-------|-----------------|-----------------|---------|--------|
| タイバーツ | 4.22            | 4.45            | +0.23   | 5.5%   |
| 人民元   | 21.06           | 20.53           | ▲0.53   | ▲2.5%  |

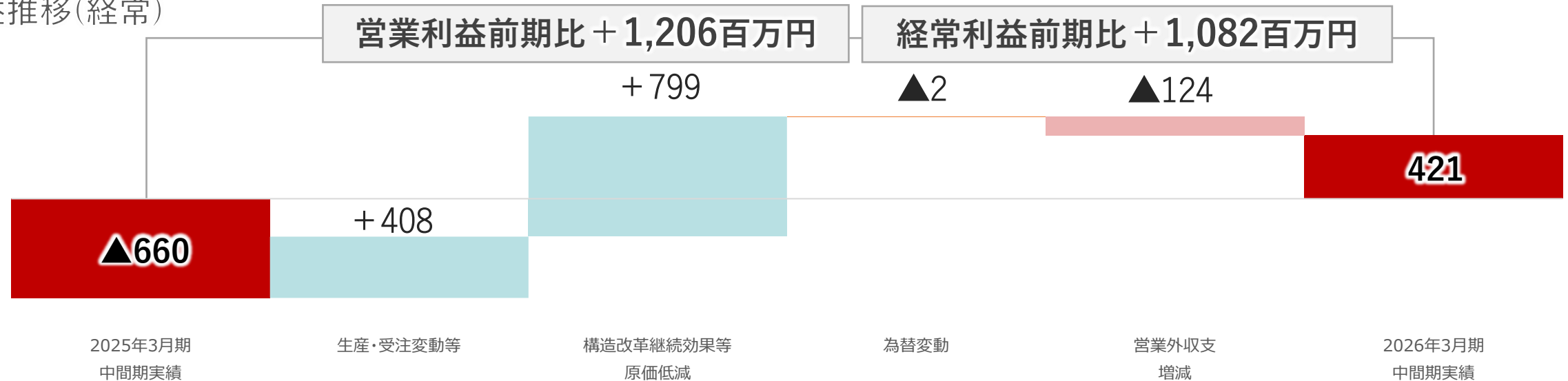
# 増減要因

## ◆ 売上推移



中国セグメントにおける電動化部品の増産影響により、増収。

## ◆ 利益推移(経常)



増産影響に加え、2023年度・2024年度で実施した構造改革の継続効果により増益。黒字化まで回復。

## 売上高

8,845 百万円

前期比 ▲7.7%

## 営業利益

115 百万円

前期比 ▲7.7%

## 経常利益

399 百万円

前期比 ▲16.9%

岡山工場新機種立上りにより、  
金型設備等の販売は増加したが、  
主要客先向け自動車部品の生産  
減少により、**売上高は減少。**

継続的な原価低減活動により  
固定費等の費用は減少したが、  
主要客先の減産影響が大きく、  
**営業利益、経常利益ともに減少。**



岡山工場

※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、  
当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

## 売上高

3,238 百万円

前期比 **+10.3%**

主要客先の国内/海外向け自動車部品及び汎用エンジン部品等の**生産増加**により、**売上高は増加**。

## 営業利益

145 百万円

前期比 **+173百万円**

前期までに実施した**構造改革**として、要員適正化及び金型事業圧縮等を中心とした**原価低減活動の継続効果**により、**営業利益、経常利益ともに増加**。

## 経常利益

96 百万円

前期比 **+198百万円**



タイ・マルジュン社

※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、  
当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

## 売上高

11,700 百万円

前期比 **+17.1%**

## 営業利益

529 百万円

前期比 **+1,088百万円**

※営業利益は広州、武漢、福建の単純合計

## 経常利益

266 百万円

前期比 **+978百万円**

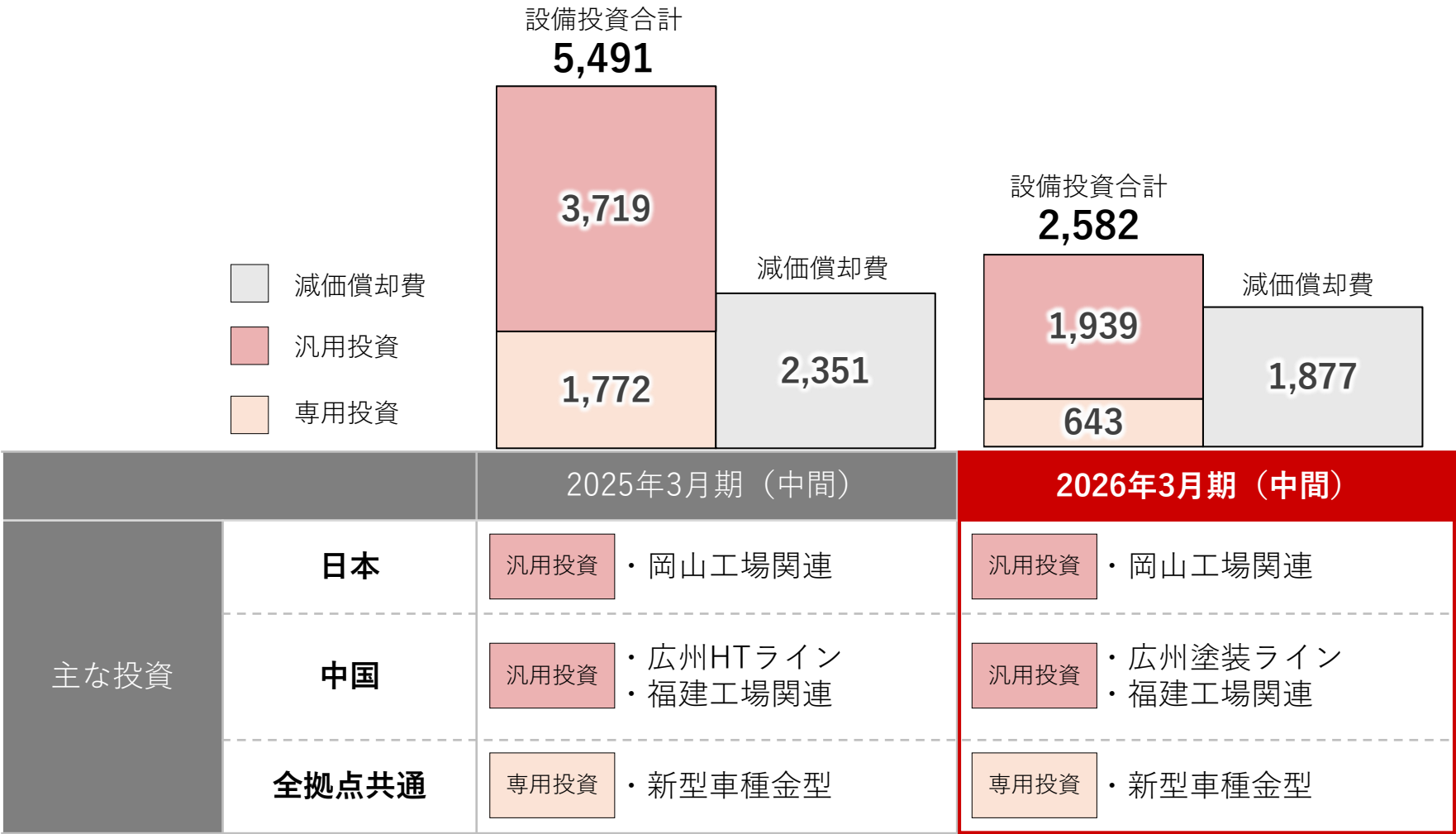
日系メーカーの減産影響を受けるも、**電動化領域における拡販活動の成果及び電動化部品の大幅増産等の影響により、売上高は増加。**

前期までに実施した要員適正化及び生産能力適正化等の**構造改革継続効果の影響により、営業利益、経常利益ともに増加。**

※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、  
当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。



福建丸順社



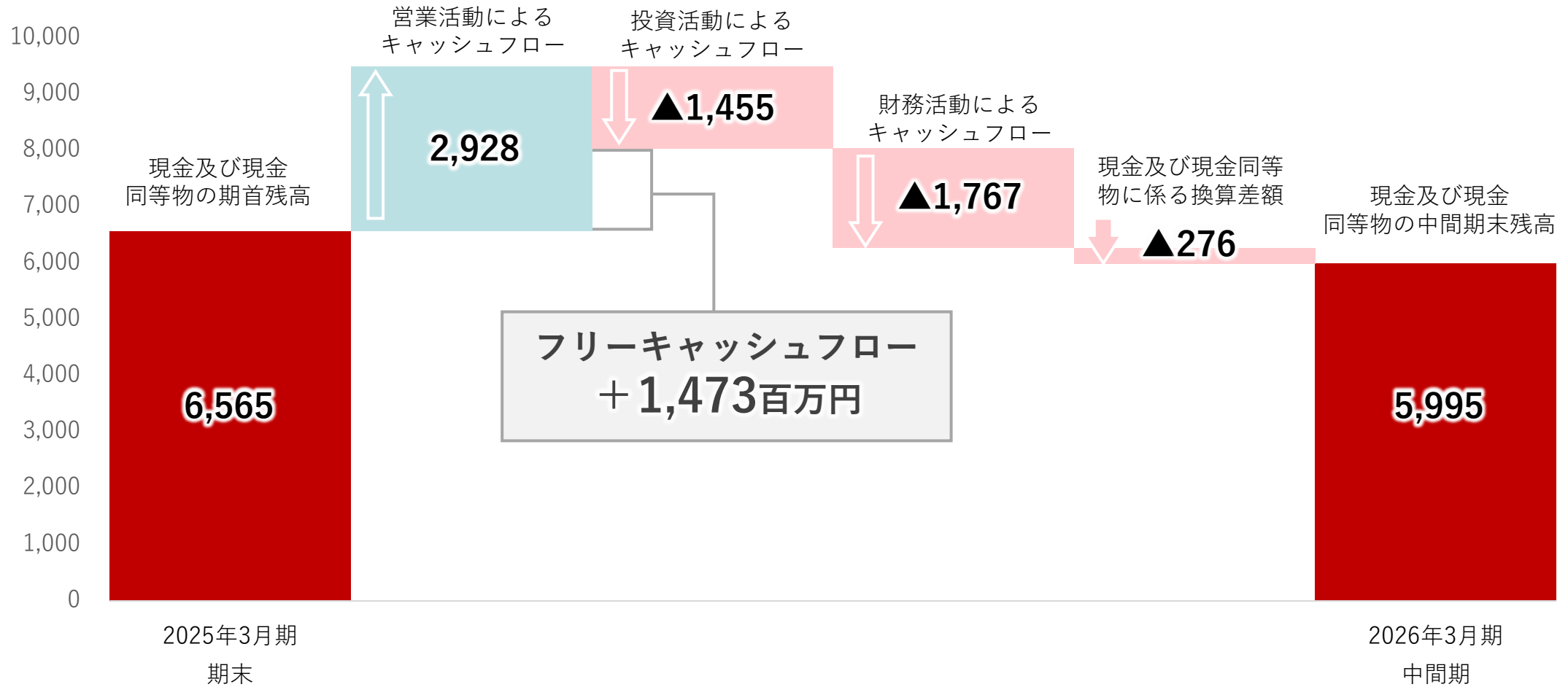
構造改革(生産能力適正化)の取組みにより減価償却費を抑制。

日本は岡山工場関連、中国は電動化部品受注に伴う、

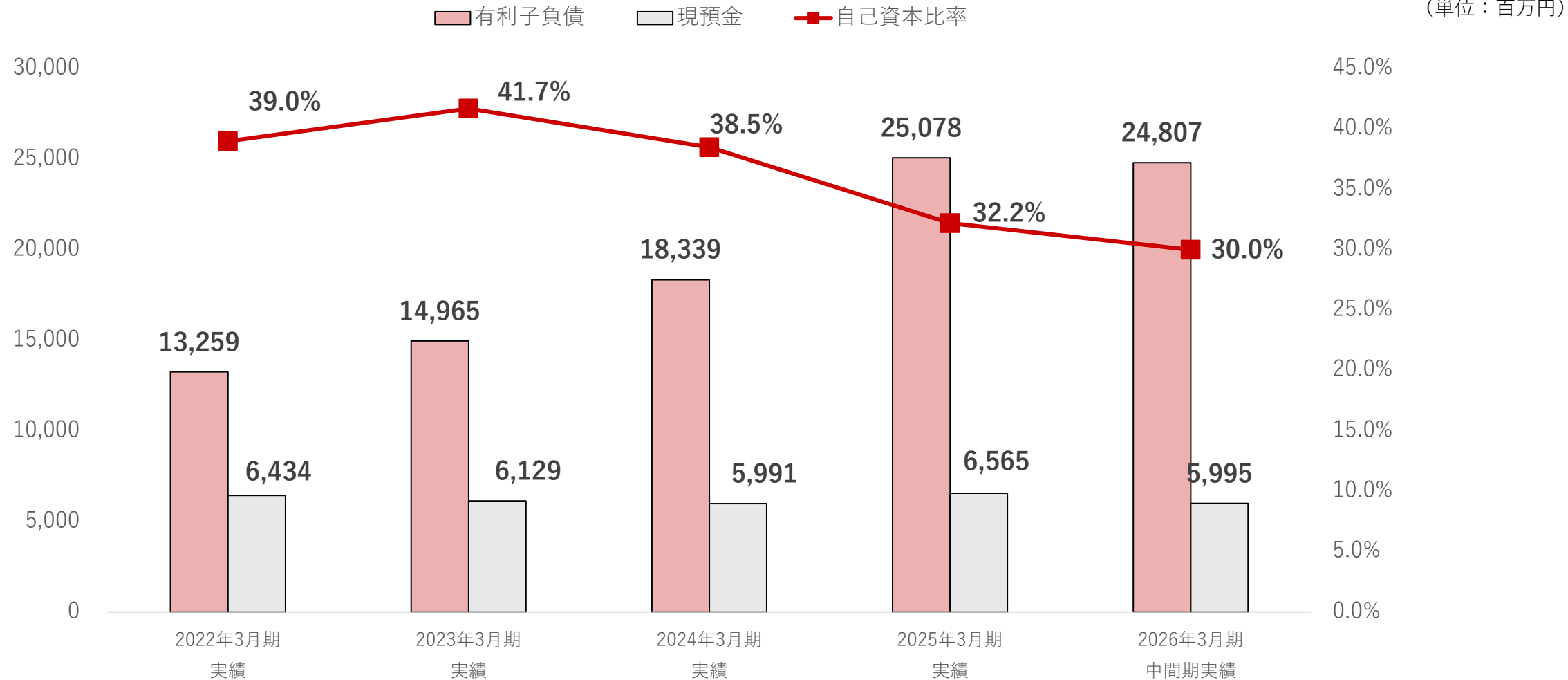
新生産ライン投資(能拡投資含む)等の中長期的な成長投資を中心に推進。

専用投資は、金型等の設備製作が発生する対象機種の減少により前期比減少。

# 連結キャッシュフローの状況



主要客先の増産及び事業構造改革効果による利益創出に加え、投資の抑制等により  
フリーキャッシュフローは+1,473百万円



岡山工場及び中国福建工場立ち上げ等の成長投資により増加した有利子負債は、依然として高い水準で推移  
自己資本比率については、為替の影響により減少するも、一定水準を維持

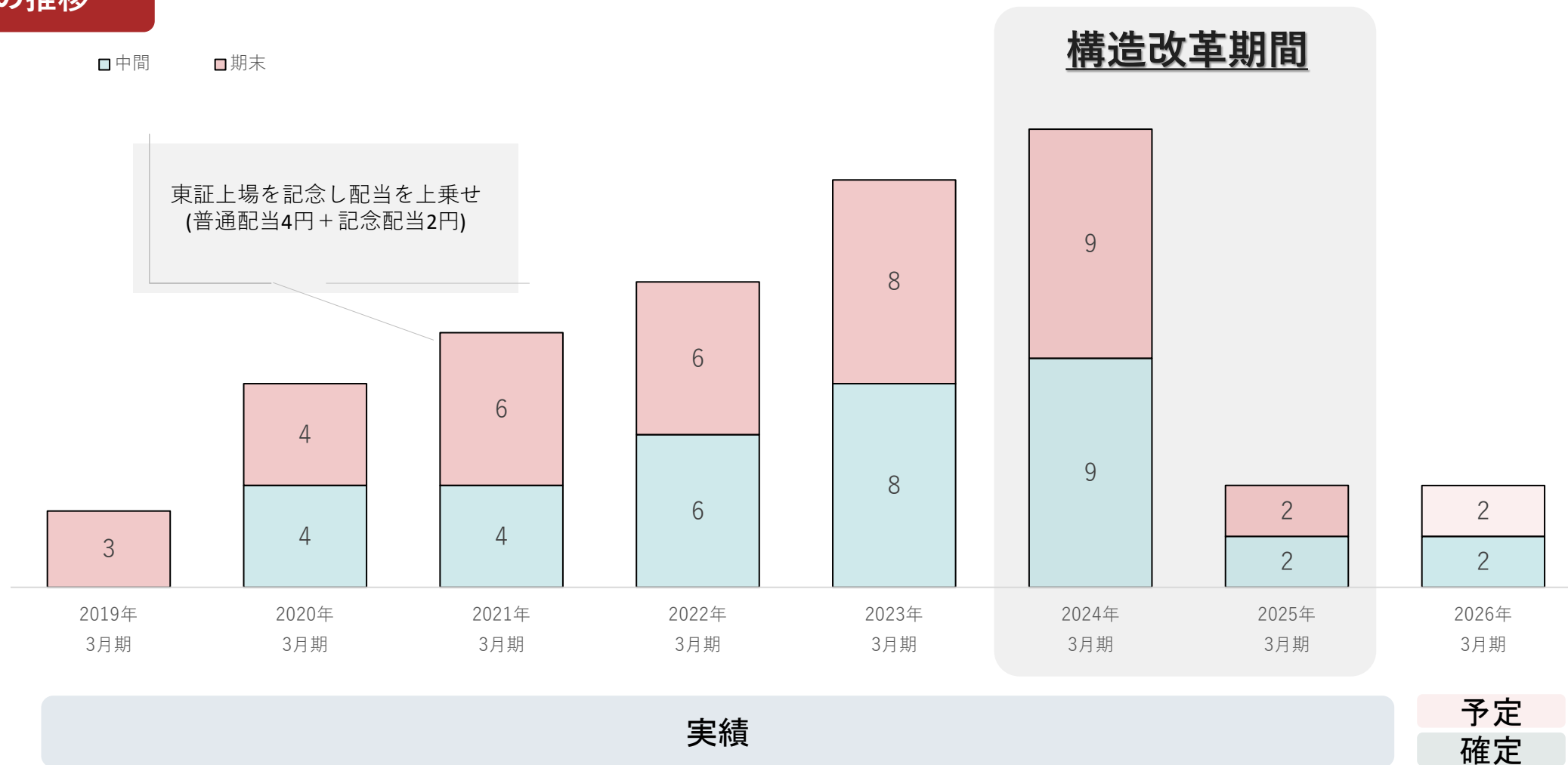
- 2026年3月期第2四半期において、連結子会社である北米子会社インディアナ・マルジュン社（単位：百万円）の清算終了に基づき特別利益を計上（2017年3月末より事業停止）
- 通期予想について、上記影響により当期純利益の業績予想を修正

|           | 2025年3月期<br>実績 | 2026年3月期<br>前回予想<br>(5/9) | 2026年3月期<br>修正後予想 | 増減額 | 増減率    |
|-----------|----------------|---------------------------|-------------------|-----|--------|
| 売上高       | 47,102         | 49,000                    | 49,000            | 0   | 0.0%   |
| 営業利益      | 19             | 1,500                     | 1,500             | 0   | 0.0%   |
| 営業利益率(%)  | (0.0%)         | (3.1%)                    | (3.1%)            |     |        |
| 経常利益      | △535           | 800                       | 800               | 0   | 0.0%   |
| 経常利益率(%)  | (-)            | (1.6%)                    | (1.6%)            |     |        |
| 当期純利益     | △3,282         | 350                       | 850               | 500 | 142.9% |
| 当期純利益率(%) | (-)            | (0.7)                     | (1.7%)            |     |        |
| 一株利益(円)   | △286.34        | 30.53                     | 74.11             |     | -      |

|       | 2026年3月期（円）          |
|-------|----------------------|
| 為替レート | タイバーツ：4.49、人民元：20.60 |

## 配当の推移

(単位：円)



連結/単体業績・将来の業績、資金需要、内部留保及び財務体質等の状況を総合的に勘案し、中間配当は2円とさせていただきます。

# 報告事項



01

2026年3月期中間決算及び2026年3月期通期業績予想

02

成長へ向けた取り組みについて

## ◆ 岡山工場オープンハウス

**2025年8月1日に岡山工場オープンハウスを開催**



起動式(テープカット)



記念式典



工場紹介



新プレスライン(3000t TRF)+溶接ライン

25年9月より  
新型量産開始

## ◆ 新型ルークス / デリカミニ を岡山工場で量産開始

**NISSAN / MITSUBISHI**

「ROOX / DELICA MINI」

**岡山機種で過去最多の部品点数を受注**

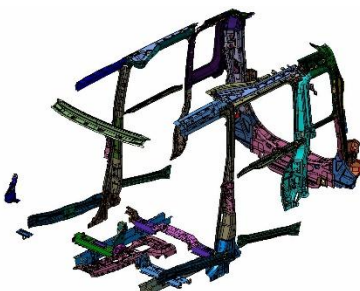
※下記の2機種は共通プラットフォームを採用



新型 ルークス



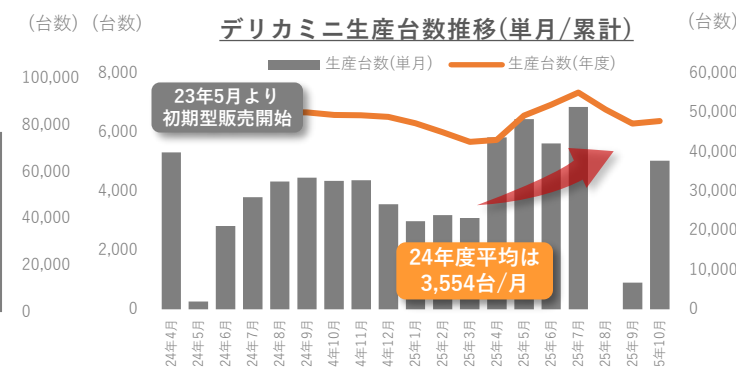
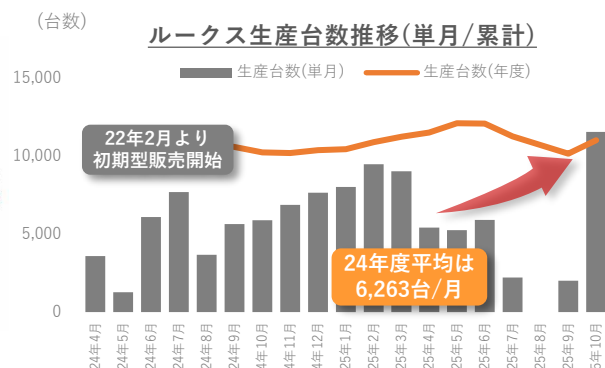
新型 デリカミニ



J-MAX 受注部品群

**前年度は軽カテゴリーの販売台数で  
ルークス(6位)、デリカミニ(9位)**

※前年度(24年4月～25年3月)までの新車累計販売台数



※販売台数：全国軽自動車協会連合会開示数値を採用

※生産台数：月次内示情報を採用

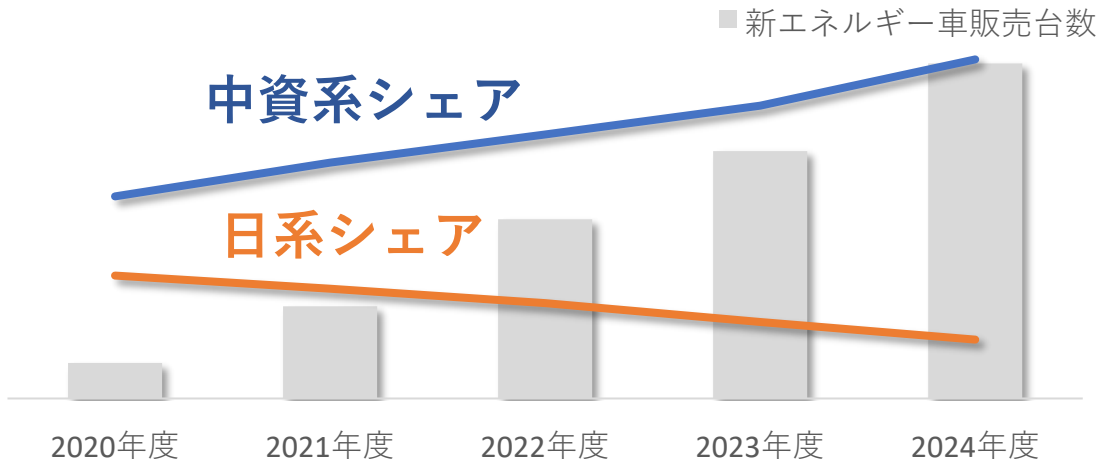
※下図グラフの生産台数(年度)は当月までの

1年間の新車累計生産台数を記載

※下図グラフのデリカミニはekシリーズの台数も含む

約40名のご来賓の中、岡山工場オープンハウスを開催するとともに  
2025年9月より新型ルークス/デリカミニの量産開始(前期モデルからの継続受注)

## ◆中国の中資系/日系OEM販売台数シェア 新エネルギー車販売台数推移



## ◆売上比率



**中国のプレス部品売上高の約4割が中資系OEM**

世界でEV化が先行する中国において技術力を構築し  
今後の世界のEV化に向かって展開を図っていく

## ◆主要取引先(中資系OEM)

| 取引先     | 概要            | 取引開始時期 |
|---------|---------------|--------|
| CATL    | 世界最大の電池メーカー   | 2020年度 |
| 吉利LOTUS | 高級EVスポーツブランド  | 2022年度 |
| 小鵬汽車    | スマートEVメーカー    | 2023年度 |
| 広汽集団    | 大手国有自動車メーカー   | 2025年度 |
| 嵐図汽車    | 東風集団系高級EVメーカー | 2025年度 |

**中国の環境変化に合わせて中資系OEMと取引拡大**

## ◆「空飛ぶ車」部品受注確定

中国ローカル系メーカーとの共同開発により受注決定



**開発が完了し  
量産に向け推進中**

# 技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

## ▼ WEBSITE

 HP ▶ <https://www.jp-jmax.co.jp>



J-MAXグループ  
全体の情報を  
網羅的に発信中！

## ▼ OFFICIAL SNS

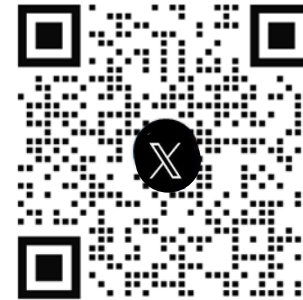
 YouTube ▶ @J-MAX3422



IR情報を中心に  
動画で情報発信中！

## ▼ OFFICIAL SNS

 X(旧Twitter) ▶ @J\_MAX3422



最新情報を  
写真付きで発信中！

この資料は、株式会社J-MAX（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

## 質問 ①

今回の上方修正は貴社業績底打ち期待という点で注目しております。貴社は配当性向20%目安とのことですが、今回増配も併せて実施されず残念でした。増配はされない理由についてご教示ください。

## 質問 ②

**本田技研工業は貴社の最大取引先という認識です。今年6月に同社が貴社株式保有比率の減少報告をされていますが、関係性に変化はあるのでしょうか？**

質問 ③

**新たに稼働開始された岡山新工場と福建新工場の減価償却は定額法、定率法どちらを採用されていますか？**

#### 質問 ④

**新たに稼働を開始された中国の福建新工場において、状況を教えてください。受注は順調でしょうか？**



ご清聴ありがとうございました

株式会社 J-MAX

(東証スタンダード・名証メイン コード：3422)